科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名<英訳>	ILASセミナー：ごみ問題と３R・循環型社会形成 ILAS Seminar :Waste Management Issues and Material Cycles Society Developments by 3R Strategy of Reduce, Reuse and Recycling			担当者所属職名・氏名	環境安全保健機構 教授　平井　康宏 環境安全保健機構 准教授　矢野　順也		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	受講定員(1回生定員)	6 (6) 人	配当学年	１回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	総合研究2号館2階231会議室 (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	循環型社会 / ごみ問題 / リサイクル / 資源循環 / 環境						

[授業の概要・目的]

「ごみ」は、世界中の人間、誰もが出して生きていると言っても過言ではないでしょう。しかし、我々（少なくとも一般市民の方々）は、どれだけ、「ごみ」のことを知っているでしょう？このゼミでは、ごみ（廃棄物）や廃棄物問題を科学的に捉えると同時に、その解決に向けた「３R」（リデュース・リユース・リサイクル）の考え方、それらを通じて実現しようとする「循環型社会」に関して、知見を深めることを目的とします。

今年度は、プラスチック問題や食品ロス問題などに焦点をあてる予定です。

[到達目標]

・環境関連資料の原著論文を自らの力量で読解できるようになる。
・ごみ問題・循環型社会形成に関連して、既往研究でまだ明らかにされていない課題を見出すことができるようになる。
・課題に対しての仮設を設定し、その仮説を立証するための調査・解析計画を立案・実施することを経験する。

[授業計画と内容]

◆ごみに関する基礎的知見（初回～２回目程度）

まず、授業担当者からの序論により、廃棄物問題の構造と循環型社会形成への方向性を理解します。また、今年度取り組むトピックをいくつか紹介し、各自の関心に沿って、２グループ（1グループ3人）に班分けします。

◆文献の読み込み・発表（３回目程度以降～７回目程度）

対象とするテーマに関する学術論文や報告書を読み込み、理解を深めます。これを踏まえて、課題を設定し、仮説を立案、これを立証する調査・解析方法を検討します。論文の内容紹介から、仮説の紹介、仮説立証に向けた今後の調査計画をグループでとりまとめて、発表します。

◆調査・解析の実施・発表（８回目程度～１４回目）

設定した仮説に関し、フィールドワークやデータ解析を行い、結果をとりまとめて発表します。

◆２名の教員の役割と授業の進め方

本科目の授業開講時（月曜５限）には、原則として２名の教員が出席し、基礎的知見の提供や課題の考察の方向性について助言します。また、具体的な調査内容は、人数やテーマ、関心に応じて

ILASセミナー：ごみ問題と３R・循環型社会形成(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：ごみ問題と３Ｒ・循環型社会形成(2)

設定します。授業担当の教員とともに先輩のゼミ生が作業（パソコンやソフト等の利用から文献検索、発表資料作成の方法まで）の支援も行います。

◆過去の調査テーマ例
・京大吉田キャンパスにおけるプラスチックごみの排出実態の調査（ごみ組成調査）と分別掲示の改善の試行・効果検証
・京都市内スーパーにおける省包装・裸売りの実態調査（店頭調査）
・自治体のプラスチック資源化量に及ぼす、ごみ処理施策（ごみ袋有料化、資源ごみ回収頻度）や地域特性の影響の検討（パネルデータ分析）
・家庭内での食品ロス発生量に及ぼす、食品購入・保存・調理・廃棄行動と意識の影響の調査（ネットアンケート調査、統計解析）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

　レポート課題を課し、その報告レジュメとプレゼンテーションにより評価します。平常点としての出席と参加の状況も考慮します。レポート課題と平常点の評価はほぼ１対１の予定です。

[教科書]

使用しない
必要に応じて研究論文等を配布します。

[参考書等]

　（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

物質循環に関連する原著論文を読解することや関連した復習に取り組むことをお奨めします。

[その他（オフィスアワー等）]

　授業の主たる担当者は、京都大学の環境や廃棄物の管理に携わっている環境管理部門の教員です。学内実務に関わりながら、社会システム研究を進めていますので、その研究室活動にも参加可能となるよう配慮します。